

地震

地震はいつ発生するかわかりません。
まずは地震や地震が発生した際の想定被害を知り、いざというときに備えましょう。

！ 地震発生時の行動

地震が発生してからの行動を時系列に示しています。地震時の行動を想定しておきましょう。

地震発生

緊急地震速報

- 特に強い地震が発生した際、震度3以上の揺れが予想される地域に対して発表されます。
- テレビ・ラジオ・携帯電話などから入手することができます。ただし、携帯電話は震度4以上の強い揺れが起こると予想される地域に配信されます。
- 発表から揺れが来るまで数秒から数十秒しかないため、速やかに身の安全を確保することが重要です。

身の安全を確保

大きな揺れを感じたら

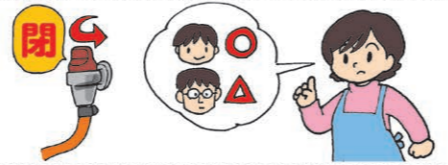
- まずは身を守る
- 倒れそうな家具やガラス窓などから離れる
- すばやく火を消す(危険なので無理しない)
- 脱出口(ドア、窓)を確保する



1~3分

大揺れがおさまったら

- 火元や、家族の安全の確認をしましょう



5~10分

わが家の安全確認

- 火災、家屋倒壊などの危険がないかどうかの確認をしましょう
- 安全な場合 余震に注意し、テレビ・ラジオなどで情報収集しましょう
- 危険な場合 非常持出品を持って避難しましょう



10分~半日

近隣の安否確認、助け合い

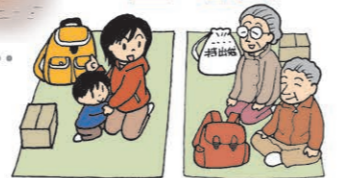
- 安否を確認し、協力し合って救出・救護・消火活動などを行う
- 協力し合って避難する



半日~3日

避難後は助け合いの心で

- 2~3日は自活できるように飲料水、食料の確保



！ 揺れの強さ

震度は、わたしたちが生活している場所での揺れの強さのことを表します。各震度の強さを知り、地震が起きた時の対処方法を想定しておきましょう。

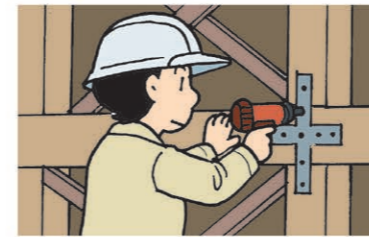
緊急地震速報(予報)		緊急地震速報(警報)		緊急地震速報(特別警報)		
震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半の人が揺れに気づく。	大半の人が揺れに驚く。	大半の人が物につかまりたいと感じる。	大半の人が行動に支障を感じる。	立っていることが困難になる。	這わないと動けない。	動けず、飛ばされることもある。

！ 地震に備える

被害をおさえるために家屋や屋内の点検をし、安全な環境をつくっておきましょう。地震時には、家具の転倒や落下物による負傷が多く起こります。あらかじめ家具を固定し、転落を防止しましょう。

家の耐震化

耐震診断をし、必要があれば耐震化を行う。



壁や塀の点検強化

ひび割れ・破損の有無を点検し、補強する。



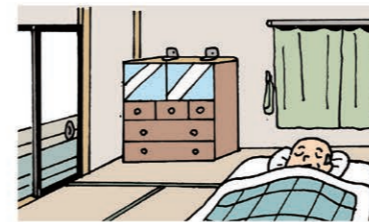
避難経路の確保

玄関や通路に物を置かないようにする。



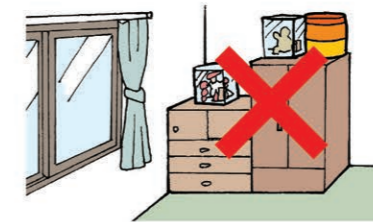
家具配置の見直し

倒れても安全なように、向きと配置を確認する。



高所に物を置かない

落ちると危険なものは高い所に置かないようにする。



ガラスの飛散防止

食器棚や窓などにガラス飛散防止フィルムを張る。



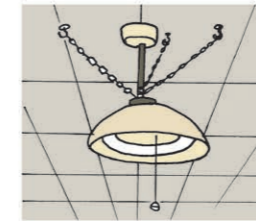
棚・タンスの固定

L型金具などで壁の棧や柱に固定する。



照明の固定

複数のチェーンで天井に止めて固定する。



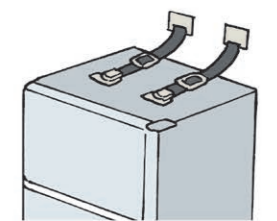
テレビの固定

粘着マットなどを使い、固定する。



冷蔵庫の固定

上部を転倒防止用ベルトで固定する。



Topics トピックス

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

※先に発生した地震を先発地震、これ以降に引き続いて発生する地震を後発地震と呼びます。

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、モーメントマグニチュード(Mw)7クラスの地震が発生した後に、更に大きなMw8クラス以上の大規模な地震が発生した事例などが確認され、今後も同様の事象が発生する可能性があります。【前例】東日本大震災(先発地震)3月9日 M7.3 → (後発地震)3月11日 M9.0

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺で Mw7 以上の地震が発生した場合には、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、後発地震への注意を促します。

- 1 モーメントマグニチュード7以上の地震発生で「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されます。
- 2 情報が発信されたら備えの再確認とすぐに避難できる態勢の準備を！